

# 太田道灌陣屋跡(比企郡川島町)

前方が太田道灌陣屋跡の養竹院



「太田道灌公守護仏」とある



左手の石柱には「臨濟宗円覚寺派常楽山養竹禪寺」とある



右手の標柱には埼玉県指定文化財「紙本着色達磨図信方印」(右)「叔悦禅師頂相」(左)とある





「天神さま」とある



「太田道灌の陣屋跡」と記された石碑が立つ



正面は山門





県指定有形文化財

# 紙本着色しゆくえつ叔悦しゆくえつ禅師頂相

比企郡川島町大字表常楽山養竹院  
(埼玉県立博物館蔵)

養竹院は明応の頃(一四九二〜一五〇〇)太田道灌の養子の岩槻城主太田信濃守資家が道灌の為に建てて、道灌の弟の叔悦(一五二五年没)を鎌倉の円覚寺から招いて開いたお寺です。

叔悦しゆくえつ禅師頂相とは、禅宗のお坊さんである。叔悦しゆくえつが曲録まがろくという椅子にかけた縦八三センチメートル、横三七・五センチメートルの肖像画のことです。

叔悦の後をついだ奇文というお坊さんが描かせたもので絵の上部には建長寺の賜谷という人が賛(たたえたことば)をしています。この賛には叔悦が相模地方(今の神奈川県)で生れ、若い頃から円覚寺で学問や修行をした立派なお坊さんであることが書かれています。

絵の色がだいぶ薄くなつてしまい、下絵の線が見えているところもありますが、叔悦がまだ生きていたときの姿がわかるだけでなく室町時代の禅宗のお坊さんのようすがわかるので県内ではたいへん貴重なものです。

なお、養竹院には、資家の子資頼の姿を描いた画像や墓その他のものもあります。

昭和五十六年三月二十七日

埼玉県教育委員会  
川島町教育委員会

板碑群が立つ/ 右から天文年間、文和3年(1354)、暦応2年(1339)、延慶2年(1309)、3基おいて貞和2年(1346)と鎌倉時代末期から南北朝期にかけての紀年が刻まれているという



正面が本堂か





鐘樓





さて、山門の付近を見ると水堀が廻っている



反対側を見る







直角に廻り込んでいる





振り返って見る



千手観世音堂





延寿座像尊とある



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/237doukan/doukan.html>

[http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic\\_rosier/53838632.html](http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/53838632.html)

<http://homepage2.nifty.com/zikihatiman/ootadoukan.htm>

<http://www.geocities.jp/tsukavan0112/ioukan-saitama/ohta-doukan-iinva-kawaiimamati/ohta-doukan-iinva-kawaiimamati.html>



インターネットより